

社会学系コンソーシアム通信 第3号

2009年1月

社会学系コンソーシアム通信第3号をお届けいたします。近々行われる学会大会やその他イベントなど各学術団体の活動を広く他の学術団体と共有し、相互のコミュニケーションや交流を広げようとする企画の一環です。

『コンソーシアム通信』は、(1) 参加学協会の皆様のホームページ上で公表されている学会大会や研究大会のイベント情報(学協会より了承済み)、(2) 事務局にお寄せ頂いた情報、(3) 事務局からのお知らせで構成されています。

今後も、年3回(1月、5月、8月)のペースで、本通信を配信する予定ですので、シンポジウム、学会大会、国際イベントなど、情報提供の場として、皆様に積極的にご利用いただければ幸いです。

1. 参加学協会イベント情報

★北海道社会学会

2009年度大会

- ・日時：6月27日(土)～28日(日)
- ・場所：札幌学院大学(江別市)
- ・会員による一般報告の募集は2009年3月頃、大会プログラムの公表は5月頃
- ・ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/hsa/index.html>

★数理社会学会

第47回数理社会学会大会

- ・日時：3月7日(土)～8日(日)
- ・場所：京都産業大学
- ・ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams/conferen.html>

※非会員の方へ： 大会プログラムは、学会事務局から会員宛に郵送されます。非会員で

報告を希望し、かつ大会プログラムの郵送を希望される方は、定型封筒に宛先を記入し 80円切手を貼付の上、「一般研究報告申込書」に同封して研究理事あてにお送り下さい。なお、プログラムは大会の約1ヶ月前に学会ホームページ上でも公開されます。

★日本社会情報学会 (JSIS)

研究発表の公募のお知らせ

公募型&実践型ワークショップ（ビッグネームに自分の発表を聞いてもらう企画）

2009年度は地域情報化をテーマに、JSIS 中部地区研究例会とコラボレーションして、以下の要領で開催します。テーマに従い、地域を構成する3領域から、それぞれを代表する第一人者をお招きする予定です。刺激的で将来に繋がるコメントをいただき、今後に関わるネットワーキングができるのではと期待しています。

そのために若手研究者の発表を公募します。応募報告は、企画委員会内に設置される査読委員会のレフリーによって、以下の要領で選抜されます。分野も限定しませんし、職業・所属も研究機関でも一般企業・NPOなどでもかまいません。今回はJSIS会員以外にも広く公募します。ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしております。

テーマ：「情報化する地域—地域のどこに情報があるのか？地域はそれを活かせるか？」

日時：2009年3月15日(日) 13:00~17:00

場所：名古屋大学大学院 情報科学研究科（東山キャンパス・不老町）

コメンテータ（予定・調整中）：

1. （行政・施策サイド） 馬宮和人 総務省情報流通行政局地域振興課 課長補佐
2. （企業サイド） 井上滋樹 (株)博報堂 MD 統括局
3. （住民・市民サイド） 大西光夫 NPO 法人ボランラリーネイバーズ 理事長
4. （研究者サイド） 加藤晴明 中京大学現代社会学部 教授（中部担当研究委員）

発表応募要項

- ・ 内容：地域情報化に関する社会情報学的な報告。（文系・理系を問わず、関連していれば萌芽的研究で構わない。）詳細は下の「テーマ解題」を参照。
- ・ 締切：2009年2月15日（日） 厳守のこと
- ・ 投稿資格：40歳以下、ないしは研究歴10年程度の若手研究者（所属・会員資格は不問）。
- ・ 応募方法：以下の内容をメール本文に記載すること。

(1) 氏名・年齢・所属 (40 歳以上は研究歴を添付のこと。書式自由。)

(2) 報告タイトル (3) 報告要旨 200 字程度

(4) 報告の社会的な意義、独創性の自己推薦コメント 100 字程度

また、以下のデータを投稿時に添付すること。

(5) 報告論文 A4 一枚以内の論文 or レジюме、ないしは 6 枚程度のスライドを添付できる。形式は MS-Word、MS-PowerPoint、ないしは html 形式であること。

(6) 写真・図表は jpg 形式で一枚のみ添付できる。これら以外は添付できない。

- ・ 提出先 : ahattori@ic.kanagawa-it.ac.jp (神奈川県工科大学 服部哲)
- ・ 報告時間は 15 分。コメント、質疑応答で 15 分の予定。

- ・ テーマ解題 :

「情報化する地域—地域のどこに情報があるのか？地域はそれを活かせるか？」

過疎化・不況などにより疲弊する地方の振興策として、または社会関係を喪失し孤立させる都市の改善策として、「地域の情報化」が着目されている。それは自治体行政の情報化から、地理情報 (GIS) を活用した情報支援・災害支援、ユビキタスによる地域通貨や商店街活性化、住民自らによる情報共有サイトの構築など、あらゆる分野で広がりを見せている。

もともと地域の情報化は、最近はじめた話ではない。前世紀から、常に情報技術は地域生活への導入が図られ、いくつもの“画期的”と称される取り組みがなされてきた。それらの大半が、充分根づかないまま終わってしまったからこそ、現在でもなお、地域情報化が語られ、目指されているのだといえるだろう。

なぜ私たちは、未だ自分たちの地域について、充分知り得ないのか。なぜ住民による地域情報の活用が、未だ満足に達成されないのか。地域の情報化は、現代の情報科学・社会科学・人文科学に共通する問題として、より多角的に取り組まなければならない。

私たちは、いかに地域の良質な情報を収集し共有できるのか。それがいかなる地域の変革をもたらすのか、そして地域は、自らの力で発展していけるのか。地域情報化を技術と社会の多様な側面から再考してみる機会を提案したい。地域情報化の第一人者を、行政、ビジネス、そして住民・NPO の 3 領域からお招きし、理系・文系問わず積極的に議論し、その後の協働に結びつけることを狙う。多くの皆さんのエントリー、参加を期待している。

(企画に関するご質問は 企画委員会内担当・柴田邦臣 k.shibata@otsuma.ac.jp まで)

★日本老年社会科学大会

第51回日本老年社会科学大会

※第26回日本老年学会総会として、6学会合同の大会になります。

- ・日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会
日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会

1. 大会長：長嶋紀一（日本大学文理学部）
 2. メインテーマ：「老年社会科学の新しいビジョンの構築に向けて」
 3. 期日：2009年6月18日（木）～20日（土）
 4. 会場：パシフィコ横浜・インターコンチネンタルホテル
 5. 主なプログラム
- 6月18日（木）：第26回日本老年学会総会
- 老年学シンポジウム「虚弱・老衰について」
 - 合同ポスターセッション（テーマ：認知症）
 - 特別講演：「宇宙・地球人としての生老病死（仮題）」松井孝典（東京大学）
 - ランチョンセミナー，老年学会総会，合同優秀ポスター表彰
 - 会長講演「人間の学としての老年学」小澤利男大会長
 - 50周年記念シンポジウム「老いるということ」
 - 記念式典・懇親会
- 6月19日（金）：第51回日本老年社会科学大会（1日目）
- （午前）一般報告（ポスター発表），教育講演，ワークショップ（大会企画）
 - （午後）日本老年社会科学会総会
 - シンポジウム 「認知症について語る」
 - 座長：加藤伸司（東北福祉大学）
- 6月20日（土）：第51回日本老年社会科学大会（2日目）
- （午前）一般報告（ポスター発表），教育講演，ワークショップ（大会企画，一般公募）
 - （午後）一般報告（ポスター発表），ワークショップ（大会企画，一般公募）

2. 新規参加学協会情報

日本社会学理論学会が新たに社会学系コンソーシアムに加盟されました。また、日本労働社会学会より活動ファイルをお寄せ頂きました。ご紹介いたします。

学協会名： 日本労働社会学会	会員数：288人
代表者名： 松戸 武彦	コンソーシアム担当者名 (E-mail アドレス)： 山田 信行 (jogoaya@ruby.plala.or.jp)
活動方針：本会は、産業・労働問題の社会学的研究を行うとともに、これらの分野の研究に携わる研究者による研究成果の発表と相互交流を行うことを通じて、産業・労働問題に対する社会学的研究の発達・普及を図ることを目的とする。	
活動内容： <ol style="list-style-type: none">1. 年次大会の開催 毎年秋、年次大会（自由報告、シンポジウム、工場見学会）を開催している。2008年10月に第20回大会を専修大学において開催した。2. 研究例会の開催 研究例会を年4回（12月、3月、7月、9月）開催するほか、関西の会員が関西研究例会を年数回開催している。3. 学会誌の発行 機関誌『日本労働社会学会年報』を1990年から年1回刊行するとともに、労働調査に基づく論文を主に掲載する『労働社会学研究』（通称、ジャーナル）を年1回刊行している。4. 日本労働社会学会奨励賞の表彰5. 社会学系コンソーシアムならびに社会政策関連学会協議会へ加入し、関連学協会との連携を図っている。	

学協会名： 日本社会学理論学会	会員数： 283名
代表者名： 西原和久	コンソーシアム担当者名 (E-mail アドレス) : 数土直紀 (sst@wwwsoc.nii.ac.jp)
活動方針： 1. 社会学理論を中心とする社会理論研究の場の創造 2. 国内のみならず、世界に開かれた学会を目指す	
活動内容： *年次大会の開催 (年1回) *機関誌『現代社会学理論研究』の発行 (年1回) *講演会の開催 (随時) *ニューズレターの発行 (随時) *研究例会の開催 (随時)	

3. コンソーシアム事務局からのお知らせ

1. 「情報交換スペース」につきまして

当コンソーシアムでは、ホームページに「情報交換スペース」のページを設け、参加学協会の皆様の活動をご紹介します。参加学協会の皆様の活動をコンソーシアム参加学協会全体に提供することで、学協会間の交流を活発にすることができればと考えております。 <http://www.socconso.com/space/index.html>

昨年、学協会の皆様がホームページ上で公表されている学会大会や研究大会のイベント情報を、当コンソーシアムの「情報交換スペース」に掲載させていただきようお願いに上がりました。ご理解とご協力のほど、お願いいたします。

2. ニュースレター「海外事情」欄への寄稿募集

来月発行予定の『コンソーシアム・ニュースレター』第二号では、「海外事情」欄を新設いたします。「海外事情」欄では、海外各国での社会福祉学関係・社会学関係学会や研究状況の紹介をいたします。執筆者の専門の領域での動向や、海外の研究に触れてお考えのこと、興味深い出来事など、多様な事柄について自由にお書きいただいたことを掲載いたします（字数については1000字程度）。

若手の留学生や研究者に気軽な形で投稿したり、ネットワーキングの機会としてぜひご利用ください。各学協会の会員の皆様へお声かけくださいますようお願いいたします。

事務局・問い合わせ

社会学系コンソーシアム幹事

布施晶子（日本社会学会）

藤田弘夫（地域社会学会）

野宮大志郎（数理社会学会）

事務局（上智大学内）

藤田泰昌・二階堂晃祐・片野洋平

TEL： 03-3238-3567（不在時はメッセージをお残してください）

E-mail： socconsortium@activemail.jp

Website： <http://www.socconso.com/>